

# 保育界

2014  
11



発行 日本保育協会

## 園庭に小さな森をつくる — マンスフェルダー・シュトラッセ幼稚園（ドイツ） —

公益財団法人 日本生態系協会  
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『園児の忍耐力と集中力を育てたい』  
『できることなら園児を毎日森で遊ばせたい』

この園では、園庭に小さな森をつくる以前から、園児は週に一度は30分ほど歩いて地域の森に出かけていました。園児は森で楽しいことを見つけて思いっきり遊びます。そうした中で、森の偉大さを前に自分の望み通りにならないこともできます。そうしたとき、この園の園児は諦めません。自分の望みを叶えるために、遊びの中で集中して様々な工夫を試みます。この園の保育者は、園児の発育には、こうした行動を引き出す森の力が欠かせないものと考えています。ただ時間的な制約から、毎日森に出かけることができません。そこで、保育者間で話し合い、園庭に地域在来の高木や中低木、野草を植えて、限られた面積ながらも森のビオトープをつくりました。

地域の森に出かけない日は、園児は園庭の森で工夫しながら遊んでいます。

■冊子「自然の教育力・保育力を活かす ～全国学校・園庭ビオトープコンクール2013より」  
昨年度に催しました「全国学校・園庭ビオトープコンクール2013」をもとに、自然を取り入れた環境づくりのポイントや実践例をまとめた冊子（32頁）とパンフレット（A3判2つ折り）を作成しました。日本生態系協会ウェブサイトから無償ダウンロードできます。